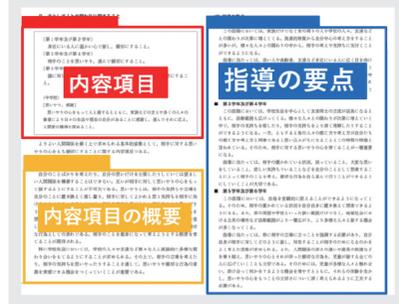


Research 内容項目をもとに 児童生徒の実態把握を行う

道徳科の授業づくりの前に、学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）を準備しましょう。



学習指導要領解説の内容項目のページは、見開き2ページで右のような構成で示されています。指導の要点には、指導の際大切にしたいことが、発達段階ごとに記載されています。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P40～41

授業づくりの準備

- 1 【道徳的価値を確認する】**

学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の内容項目のページで道徳的価値を確認しましょう。
- 2 【内容項目の概要や指導の要点を確認する】**

ねらいとする道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、内容項目の概要や指導の要点を読みましょう。
- 3 【児童生徒の実態をもとに本時で考えさせたいことを決める】**

指導の要点を確認しながら、ねらいとする道徳的価値についてこれまでのような指導を行ってきたか、その結果としての児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいことを決めましょう。

Plan

Action 授業を充実させるために

1	学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の 内容項目のページ で 道徳的価値の確認 をします。
2	道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、 内容項目の概要や指導の要点 を確認します。
3	道徳的価値について、 児童生徒のよさや課題 を確認し、 本時で考えさせたいこと を決めます。
4	教材を読みながら、 本時で考えさせたいこと が 教材のどこに含まれるか を考えます（ 教材吟味 ）。
5	本時のねらい を決定します。
6	中心的な発問 を考えます。
7	中心的な発問の 前後の発問 を考えます。
8	学習活動 （導入、話し合い、書く活動、表現活動、板書、ICTの活用等）の工夫について考えます。
9	ねらいをもとに 評価の視点 を考えます。

授業の準備はできましたか。子供たちと道徳科の授業を楽しみましょう。

児童生徒とともに考え、楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上リーフレット

授業づくりのRPDCA

平成 27 年 3 月に小学校及び中学校の学習指導要領等が改正され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」と位置付けられました。各学校においては、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育の目標に向け、様々な工夫を行いながら道徳科の授業に取り組みされていると思います。しかしながらその一方で、「道徳科の授業づくりは難しい。」「どうやって発問をつくったらよいのだろうか。』との声も多く聞かれます。

そこで、県教育委員会では、「考え、議論する道徳」の実現に向けて、教員一人一人の授業力向上と校内研修等の充実を目指すため本手引書を作成しました。

本手引書では、道徳科授業づくりの基本的な考え方や参考となる学習活動例等を紹介しています。この手引書で紹介する学習活動例等はいずれも一つの工夫の例であり、特定の指導方法を「型」として取り入れることを目指すものではありません。各学校においては、創意工夫を生かした授業づくりを進めるために、指導方法を工夫する上で参考にしたり、校内研修用の資料として使用したりするなど、児童生徒や学校、地域の実態に応じて御活用ください。各学校で行われる道徳科の授業が、児童生徒とともに考え、議論し、楽しむ授業となることを期待しています。

熊本県教育委員会

※道徳科授業力向上手引書を熊本県教育委員会ホームページに掲載しております。



道徳科の目標

道徳科の目標（「第 3 章 特別の教科 道徳」の「第 1 目標」）
第 1 章総則の第 1 の 2 の (2) に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説（特別の教科 道徳編）、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説（特別の教科 道徳編）

道徳性を養うことが道徳科の目標です。
道徳科の目標には、どのような学習活動をするのかが示されています。

- 道徳科の目標に示されている学習活動は・・・
- ① 道徳的諸価値について理解する
 - ② 自己を見つめる
 - ③ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
 - ④ 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める
- ※道徳的価値の理解については、以下の3つが学習指導要領解説に示されています。
価値理解（内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること）
人間理解（道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること）
他者理解（道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合は感じ方、考え方は一つではない、多様であるということ前提として理解すること）

左に示した4つの学習活動を通して道徳性を育成します。

目標は分かったけれども、道徳科の授業づくりは、何から準備を始めたらいのだろう・・・



授業構想の時には、年間指導計画で内容項目、教材を確認して授業に臨むだけでなく、児童生徒の実態をしっかり捉えて臨むことが大切です。
① 内容項目や道徳的価値の確認
② 指導の要点等をもとにした児童生徒の実態把握
③ 教材の活用
この順番で授業づくりを行うことで、道徳科の指導のねらいが明確になります。これが「こんなことを考えさせたい、こんなことに気付いてほしい・・・」という教師の指導の明確な意図になります。

上に示した道徳科のお団子は一番上の**内容項目**から食べていきましょう。
内容項目→**児童生徒の実態**→**教材の活用**、この手順を大切に道徳科の授業づくりを行いましょう。

教材を吟味し 授業のねらいと展開を考える

授業づくりの手順 教材の活用

1 【教材を吟味する】

道徳科の教材は、単に読んで話の内容を理解するものではなく、道徳科の授業のねらいを達成するために活用されるものです。ねらいを達成するための指導の意図、児童生徒の実態をもとに、教材のどの場面を取り上げて話し合うのかを考えます。

★Research で決めた考えさせたい部分と重なる場面を捉えます。
 価値理解、人間理解、他者理解を深められる場面はどこかという視点を持ちながら捉えていくとよいでしょう。
 ★児童生徒の実態を思い浮かべながら、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにしていきます。



2 【本時のねらいを決める】

教材吟味で話し合いたいと考えた場面がねらいにつながります。例えば右のように道徳性を構成する諸様相を入れたねらいの表記が考えられます。
 ※道徳性を構成する諸様相（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）

（ 学習（活動） ）を通して （ 判断力・心情・実践意欲・態度 ）を育てる

3 【中心的な発問から考える】

教材文の考えさせたい部分（ねらいの学習活動の部分）を中心的な発問にするとういでしょう。

POINT POINT
 1時間の授業の展開を考える際は、「導入」からではなく「展開」の中心的な発問から考えます。

4 【中心的な発問を生かすためにその前後の発問を考える】

5 【導入、終末を考える】

Do

児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

板書を生かす工夫例 葛藤パターン（矢印の活用）

よさ 登場人物の葛藤や役割演技等を通じた気づきを分割して板書すると、共通点や相違点が視覚的に分かりやすくなります。

「だまっておく」と考えた理由
 「正直に言う」と考えた理由
 「正直に言う」と考えた理由
 葛藤する2つの意見を交換した後、気づきを交流し、板書します。

主題名:自分に正直に (A-2) 正直、誠実 教材名:「まどガラスと魚」 出典:小学どうとく生きる力3 (日本文教出版)

POINT POINT
 ●2つの対立した意見を話し合った後、気づきを矢印の中に書くことで、自分たちの気づきが「本時のめあて」に向かっていくことを意識させることができます。
 ●一番考えさせたいところを板書の中心にもっていくと、インパクトのある板書になります。「縦書き」か「横書き」かは、効果を考えて授業者が決めます。

表現活動の工夫例 役割演技

よさ 登場人物の思いを即興的に演じることで、自分事として捉えやすくなり道徳的価値への理解を深めることができます。

POINT POINT
 ①そうすると、くまさんもいっしょになれるよ。
 ②おさるさん、ありがとう。さっきはごめんね。
 ③いいよ。これからはみんなで楽しくあそぼうね。

それぞれの立場での気持ちを即興的に表現します。表情や声のトーンなどからも、お互いの気持ちを感じ取ることができます。

POINT POINT
 ●即興的に演技をすることは、自分の感じ方や考え方を語るということです。児童生徒の発言に問い返しをしたり、参観している児童生徒の思いを聞いたりすると、考えは更に深まります。
 ●お面や役割カードなどの小道具を活用したり、場面に切り替わる時に、ベルや「よーい アクション」などの合図を送ったりすることで、役になりきる手助けとなります。

Check

話し合いの工夫例 ツールを使った話し合い

よさ 児童生徒相互の考えを明確にでき、多様な考えに出会い、認め合うことにつながります。

マトリックス
 主題名:相手のことを考えて (B-10) 相互理解の寛容 教材名:「ちこく」 出典:小学道徳生きる力4 (日本文教出版)

ネームプレート
 主題名:法やきまりを守って (C-12) 規則の尊重 教材名:「ここを走れば」 出典:道徳6 (光村図書)

心のものでさし
 心情円盤
 表しにくい心の中を「心のものでさし」や「心情円盤」で表現できます。

POINT POINT
 ●自分の立場や気持ちを思考ツールを使って表出させた後、例に示したような問い返しをすると更に児童生徒の考えが深まります。(例:どうしてそう思ったの?経験したことあった?みんなはどう思うの?)

自分の考えに合った立ち位置を「ネームカード」で示します。その後、それぞれの立場で全体交流をします。

ICTの活用例 一人一台端末の効果的活用

よさ 児童生徒の表れにくい心の中を可視化したり共有化したりすることができます。

前
 大切 義務 豊か 社会経験 将来 役に立つ 社会
 後
 コミュニケーション 笑顔 生きる 楽しい 支える いく 家族 見つける ありがとう できる 嬉しい

POINT POINT
 ●一人一台端末は、アイデア次第で様々な活用方法を工夫することができ、児童生徒の学習意欲を高め情報活用能力を育むことが期待できます。
 ●ねらいとする道徳的価値に迫るために効果的かどうかという視点を大切にして、指導の明確な意図をもって活用することが重要です。

POINT POINT
 ●授業前と後の児童生徒の考えの傾向の比較から、授業での学びを共有することができます。

POINT POINT
 主題名:勤労の尊さ (C-13) 勤労 教材名:「あるレジ打ちの女性」 出典:中学道徳あすを生きる3 (日本文教出版)

POINT POINT
 ※道徳科授業力向上手引書には、「導入の工夫例」や「書く活動の工夫例」等も掲載しています。

Check

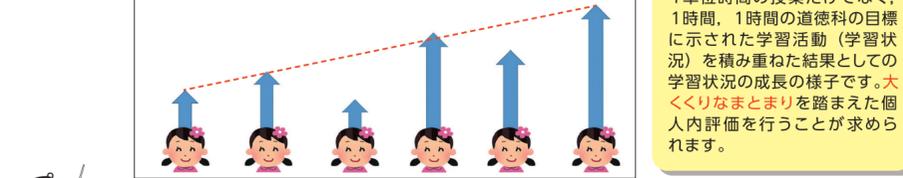
道徳科の評価の進め方

POINT POINT
 何を評価するのでしょうか。
 道徳科の授業は、道徳性の育成を目指して行います。しかし、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。道徳科では、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します。

POINT POINT
 学習状況とは何ですか。
 道徳科の目標に示されている学習活動で見られる児童生徒の発言や記述、学習活動をしている児童生徒の姿のことで。

POINT POINT
 道徳科の目標に示されている学習活動は・・・
 ① 道徳的諸価値について理解する
 ② 自己を見つめる
 ③ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
 ④ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

POINT POINT
 道徳性に係る成長の様子とは何ですか。
 1単位時間の授業だけでなく、1時間、1時間の道徳科の目標に示された学習活動(学習状況)を積み重ねた結果としての学習状況の成長の様子です。大きくりなまとまりを踏まえた個人内評価を行うことが求められます。



POINT POINT
 学習状況を把握するためにはどうしたらよいですか。
 まずは、道徳科の目標に示されている学習活動を行うことが必要です。そして、児童生徒の学びの姿を把握していきます。学習指導要領解説では次の2点で学習状況を把握していくことが示されています。

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

Action